

学校教育目標の実現を目ざす営みを

確かなものに

～組織的・継続的に改善し、協働できる学校評価を目ざして～

令和8年2月

豊橋市立栄小学校

## 1 はじめに

保護者の皆様には、日頃から本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。またこの度は、アンケート調査にご協力をいただきありがとうございました。学校評価はそれ自体が目的ではなく、学校教育目標の実現に向け、教育活動がどれだけ有効に行われたかを幅広い角度から見直し、学校全体の教育力を高めるための手段と考えています。また、その結果を公表していくことで、学校としての説明責任を果たすとともに、学校と関わる人々との課題克服に向けた協働体制をより強化したいと考えています。

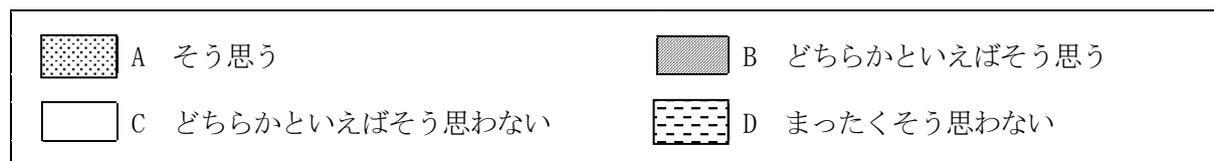
このような考えから本校では、児童・保護者・職員の三者によるアンケート調査を実施して19年目を迎えました。今年度も昨年度に引き続き、学校生活の主体者である児童によるアンケートを2回、保護者の皆様によるアンケートを1回実施しました。また、学校評議員のかたには、集計結果および改善策を2月10日に提示し、来年度の方向性についてご助言をいただきました。

今後も、より質の高い教育を旨として努力していきます。本校の取り組みに関心を深めていただき、より多くのかたからの真摯なご意見をお待ちしています。

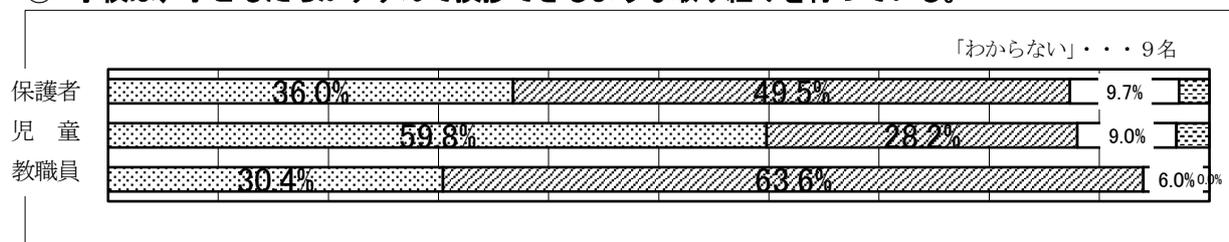
## 2 アンケート集計結果とその考察

保護者のかたへのアンケート集計では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計（肯定群）で12項目中12項目が8割以上になりました。昨年同様、本校の取り組みに対して一定のご理解・ご支持をいただいていると考えています。

しかし、他と比べて評価の低い項目や三者の結果にずれがある項目、また「わからない」が多い項目については、「自由記述」に書かれたご意見も踏まえながら、来年度の計画づくりに反映させていく必要があると考えています。



### ① 学校は、子どもたちがすすんで挨拶できるような取り組みを行っている。

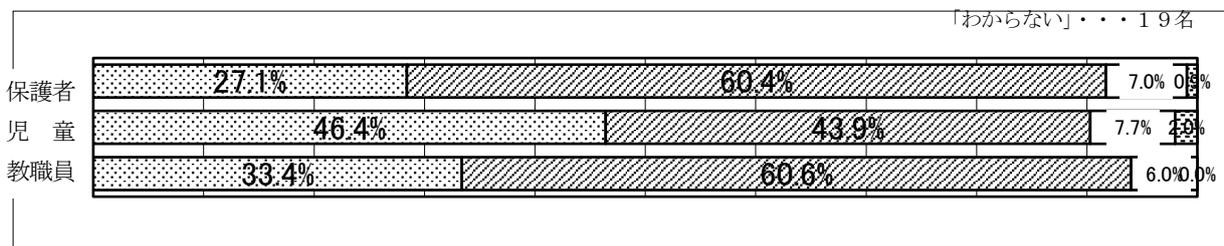


○三者ともに肯定群が8割5分以上ではありますが、「A そう思う」の評価に、「児童」と「保護者・教職員」のずれが見られます。これは、子どもたちは現状に満足している状況ですが、大人の感覚からすると、「取り組みはしているものの、子どもたちの挨拶の実態はあまり評価できない」「まだ取り組みを工夫していく余地がある」ということを表しているものと思われます。今回のアンケートでも、保護者の皆さんから「旗当番の時、挨拶全然してくれません。目を見て大きな声でおはようございますと言っても完全無視です。中学生の方がしてくれます。止まって、帽子をとって挨拶しろとは言いません。できれば子どもが自分から大きな声で相手の目を見てはっきり挨拶できる子になってほしい。それができたら小学校生活はハナマルです。挨拶はこれからの人生で絶対大切だと私は思います。」「挨拶に力を入れていると思いますが旗当番などしていても、挨拶に元気がない、挨拶がない時もあり、学校以外でも、習慣づくとよいと思いました。」など、登下校時の様子から子どもたちの挨拶の様子を心配する声をいただいています。

本年度は、「子どもたちの挨拶を地域に広げるきっかけになれば」と児童会主催で「民生児童委員の皆さんとの交流会」を企画し実践しました。民生児童委員さんは、毎朝通学路に立ち、子どもたちの登校を見守っていただいています。交流会を通して、地域の皆さん（民生児童委員さん）と子どもたちが顔見知りになれば、自然に挨拶ができるようになっていくと考えました。たった一度の交流では、挨拶が劇的に変わるということはありませんでしたが、子どもたちから「この前来て

くれた人だ」「じゃんけん列車一緒にやったね」と声をかけたり、今までは完全無視だった子どもが会釈をしたりにこりとしたりと、少しでも空気感が変わってきたという声もいただいています。今後も継続し、さらに交流を広げていければと思っています。また例年通り、各学年の子どもたちが主体となる「挨拶運動」を年6回、地域の皆様にご協力いただいた「校門挨拶運動」を年3回行いました。その期間中は、比較的元気のよい挨拶の声が飛び交い、挨拶することへの意識づけを行うことはできたと感じています。しかし、その成果はキャンペーン中だけにとどまり、挨拶が習慣化されるまでには至っていません。また、キャンペーンに参加できたことのみが、子どもたちの「挨拶ができた」という意識につながり、実際の状況とのずれが生じている現状となっています。やはり、教職員など身近な大人が理想的な挨拶の手本を示すとともに、挨拶を交わすことの意味やよさを、何度でも繰り返し子どもたちに伝えていく必要があると感じています。今回いただいたご意見を真摯に受け止め、今後も気持ちのよい挨拶ができる子どもたちに育てていくことができるよう努めてまいります。ご家庭や地域の皆様にも、ご協力をお願いすることも多々あるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

## ② 学校は、子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。



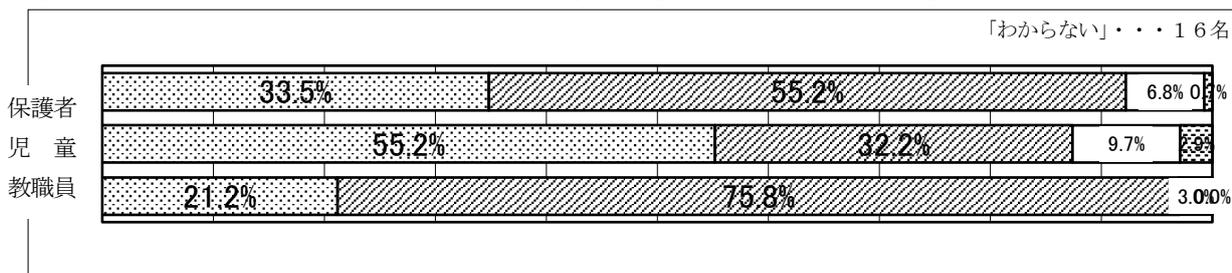
○9割近くの保護者のかたより肯定的な回答をいただいています。「友達との行き違いがあったときに担任の先生にご連絡したら、すぐに互いの言い分を聞いて指導してくださいました。」「先生たちが、見えないところで、子どもたちのために、たくさん働いてくれていて、感謝しています。」などの声もいただきました。

本年度は11月に、作曲家弓削田健介さんの「いのちと夢のコンサート」を全校で鑑賞しました。「いのちの大切さ」や「夢をもつことのすばらしさ」を感じ、感動を覚えたことをふりかえりに記述する児童も多くいました。今後も、子どもたちの心を耕せるような活動を積極的に取り入れていきたいと思っています。また本校では、集団としての規律を大切にしながら、温かな雰囲気のある学級づくりに全校で取り組んでいます。子どもたちのよい行いや思いやりのある行動を、帰りの会や学級活動などで認め合う取り組みを行うとともに、トラブルが起こった時には、互いの話をよく聞き、相手の気持ちも考えられるような指導に努めています。道徳の時間には、心に迫る教材をもとに話し合い、相手の思いを受け止めながら、互いに自分の思いを語り合える場をつくっています。立場によって考えが変わることや、思うことは人それぞれであることを知り、他者理解とともに自己理解も深めています。日々の様子から本校の子どもは、自分のことだけでなく相手や周囲のことを考え思いやる気持ちを大切にしている子どもが多いと感じています。

また、読書活動にも力を入れています。図書館ボランティアや「子どもの本を読む会」の皆様が、図書館の環境整備や本の修理、本の紹介、読み聞かせなどの活動をしてくださっており、子どもたちの情操教育にご協力いただいています。さらに、運動会の表現や競争遊戯、学習発表会など、みんなで心をつなげて取り組む活動を大切にしています。

今後もこれらの活動を通して、お互いを認め、大切にすることを養うとともに、仲間とのつながりを感じ、安心して学校生活を送ることができる子どもたちを育てていきたいと思っています。

③ 学校は、子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。



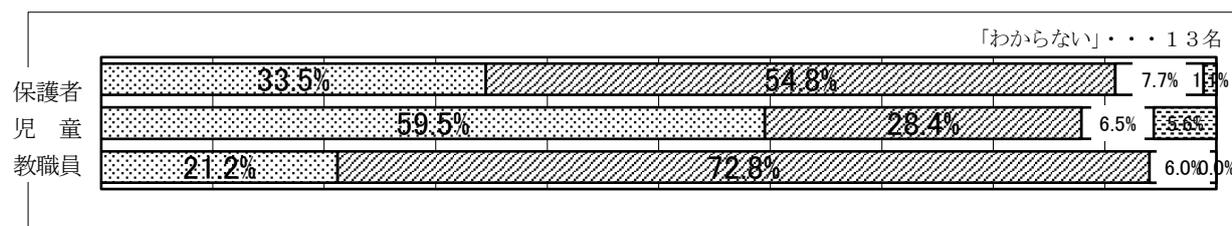
○9割近くの保護者のかたから肯定的な回答をいただいています。「メディアチャレンジによる効果がどれほどのものなのか。もっとシンプルにして負担なくできるとよい。」というご意見もいただきました。

体力面におきまして本校では、長放課における外遊びを奨励し、力いっぱい体を動かしたり仲間と一緒に遊びの楽しさを味わわせたりする中で、子どもたちの体力・気力の向上に努めています。天気の良い日には、子どもたちと外へ出て、一緒に遊ぶ教職員が多いことは、本校の自慢の一つです。また、逆上がり検定や「栄マラソン」「栄ギネス」など、目標を掲げることで、それに向かって懸命に練習し運動する子どもたちを育てています。校舎大規模改修で運動場が狭くなったため、順番に体育館を開放するという措置をとり、子どもたちの運動量と安全の確保に努めました。しかし本年度も猛暑で、熱中症対策のために外遊びが制限されたことも事実です。来年度からは市の政策で徐々に学校体育館に空調設備が整う予定ですので、子どもたちの体力向上に向けて運動量確保に取り組んでいきたいと思っています。

健康面におきまして、南丸生活チェックカードの取り組みに、いつも保護者の皆様のご協力をいただきありがとうございます。本年度の学校保健委員会では、「けがの予防」について取り上げ、講師の先生をお招きしてお話を聞いたり、保健委員会の児童が中心になって話し合ったりしました。その成果が表れ、本年度は昨年度より「けがをした児童の数」を減らすことができました。

また、ご意見をいただきました「メディアチャレンジ」につきましては、豊橋市全体で取り組んでいるものですので、ご意見として挙げさせていただきます。

④ 学校は、子どもたちにとってわかりやすく、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を行っている。

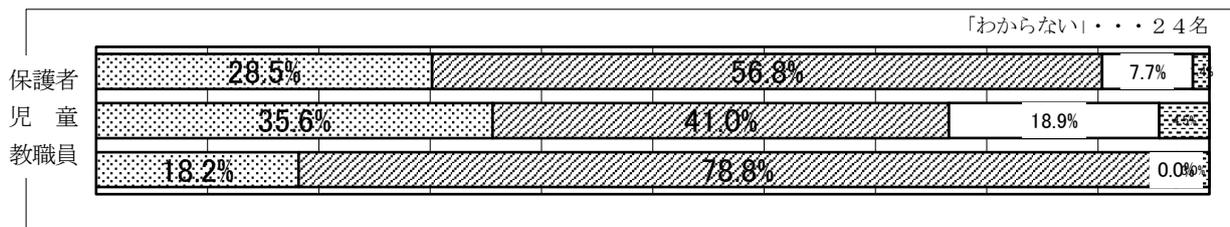


○9割近くの保護者の皆さんに肯定的な回答をいただいています。また、肯定群の中でも6割近くの児童が「先生の授業は、とても楽しくわかりやすい」と回答をしてくれていることは、うれしい限りです。しかし、5.6%の児童が反対の回答をしていることも見逃すわけにはいきません。私たち教職員は、すべての児童に「楽しく学べ、わかりやすい」と感じてもらえるような授業を目標として、絶えず研鑽していくことが必要であると感じています。保護者のかたからは、「理科で自分の考えた実験方法を試そうと家で道具を探していたり、国語の百人一首を一生懸命覚えようとしていたり、社会の都道府県を漢字で書けるようになりたいと自分の部屋の壁に地図を貼っていたりと学習に向かう姿がみられるようになりました。今年はもちろん、今までの先生がたのおかげです。ありがとうございます。」「宿題の取り組み方、忘れ物、そして授業内容の習得が十分でないまま進んでしまっている場面があり、家庭としては少し心配しています。家庭でも声かけや指導を行っていますが、本人は『家では言われるけれど、学校では何も言われないから大丈夫』と受け止めてしまっているようで、指導が十分に響いていない状況があります。学校生活は楽しさだけでなく、必要な場面で厳しさやけじめを学ぶ大切な時期だと考えております。そのため、『字が雑な宿題やテスト』『考えずに“適当に書いた”とわかる内容』『理解不足のまま提出したもの』には、はっきりバツにして再提出を促す指導をしていただけると、本人の意識づ

けにつながると感じています。また忘れ物があった際には、次回に向けた対策や、万が一忘れた場合にどう対応するかを本人の言葉で説明させる機会があると、責任感が育つと感じています。どうぞよろしくお願いいたします。」などのご意見をいただきました。

本校では本年度より、豊橋市教育委員会より委嘱を受け、「ともに学び、認め合い、高め合う子どもの育成～身近な『ひと・もの・こと』を取り入れた問題解決的な学習を通して～」というテーマのもと、「自分の考えをもち、友達と伝えあいながら、問題を解決しようとする子」「友達の思いや考えに耳を傾け、『ちがひ』や『よさ』を受け入れて、互いに大切にしようとする子」「『一人調べ』や『かかわり合い』の中で、自分の考えを深めたり、新たな考えを見いだしたりする子」を旨として研究に取り組んでいます。身近な地域や生活に関わる教材で問題解決的な単元を仕組むことで、子どもたちの知りたいという思いが生まれ、主体的に学習を進めていくことができると考え、本年度も、話し合う必然性のある問題を共有して思いを交流することで心に残る授業をつくり、全職員で授業研究に取り組み、実践してまいりました。今後も日々の授業を充実していけるよう、引き続き、日々研鑽してまいります。とはいえご指摘のとおり、それぞれの子どもたちが学習の基礎基本を身につけることも大切です。子どもたち一人一人をよく理解し、それぞれの学びを保障できる教育環境づくりを行いつつ、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業ができるよう、努めてまいります。

⑤ 学校は、子どもたちに知識や技能、自分で考え行動する力などを育てている。



○8割5分以上の保護者の皆さんに肯定的な回答をいただいています。一方で、「知りたいことや調べたいことがあるとき、自分から調べたり、だれかに質問したりできましたか。」という問いに対して児童の肯定的な回答が、7割5分程度にとどまっています。保護者のかたからは、宿題やチャレンジテスト、夏休みの宿題やタブレットの持ち帰りについて、「土日の、自主学習ノートの取り組みはとてもよかった。自分で考え行動する力につながると思う。」「チャレンジテストの回数を減らすのは学力低下を招くのではないか。」「回数は昨年程度ほしい。」「回数を減らしたことに賛成。」「チャレンジテストの代わりに10問テストやAIドリルなどを行ってほしい。」「夏休みの宿題が少なすぎて子どもたちは暇を持て余してしまう。学習プリントがほしい。」「夏休みの宿題が選択できるようになり、親としてありがたい。」「タブレットの使用を限定的にしてほしい。考えることをやめて、すぐタブレットで調べる癖が悪習慣になっている。」「夏休みや冬休みのタブレットの持ち帰りをやめてほしい。必要がないのに持ち帰ってくることで、タブレットを使いメディアに触れる時間が増えてしまう。親も注意しなければならず、互いのストレスになってしまう。」など、さまざまなご意見をいただきました。

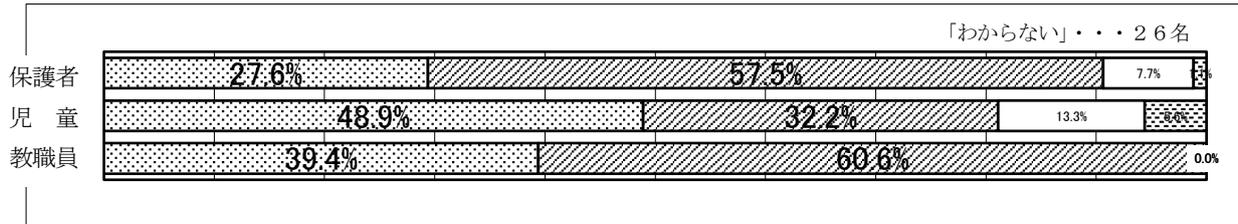
子どもたちに必要な「生きる力」を育むためには、与えられた知識や技能を身につけるだけでなく、自分で考え、行動する力を育てていくことが最も重要だと考えています。得た知識や技能を活用したり、わからないこと、疑問に思ったことを自分の力でどんどん調べていくことができる力が身につけば、個々の学びは自ずと広がっていくはずで、そのために一人一台のタブレットが国から支給され、子どもたちが、文房具のようにタブレットを使いこなして学習することができるよう、積極的に利用することが推奨されています。授業面においても本校では、単純に知識だけを得るのではなく、生活の中で使える力になるように、学習の進め方や扱う内容について工夫した「問題解決的な学習」に取り組んでいます。子どもたちが主体となって学習を進めることで、自ら考え行動する力を伸ばしていきたいと考えています。この学習を充実させるためには、個の学び（一人調べ）と協働的な学び（かかわり合い）の両方が大切です。一人で調べたことが、かかわり合うことによって広がったり深まったり、また次の学びに進んだりするからです。今後も、タブレットなどのツールを活用しながら主体的に調べる力を伸ばすとともに、「お話タイム」で話し合う力を育

み、個性を發揮しながら自ら考え行動できる児童の育成を旨としていきます。

そのような力を育むことの一環として、学年の発達段階に合わせて自主勉強を推進したり、夏休みや冬休みの課題を自由化するとともにタブレットを持ち帰り、主体的に学習に取り組むことのできる環境を整えたりしています。もちろん、タブレットの使用方法については、学校でも十分に指導をいたしますが、ご家庭でもルールを守った使用ができるよう、お声がけをお願いいたします。

また、チャレンジテストについても多くのご意見をいただきました。検討の結果、回数につきましては、来年度も本年度同様の回数で実施していく予定です。ただし、それによって学力低下を招かぬよう、日々の小テストや宿題などを充実させていきます。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

⑥ 学校は、子どもたちが通いたくなる（親が通わせたい）学校づくりを推進している。

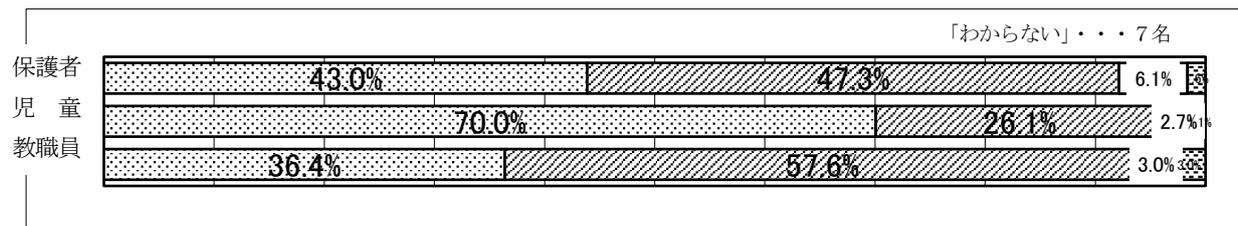


○8割以上の保護者の皆さんが肯定的に回答しています。しかし、2割弱もの子どもたちが、「学校は楽しい」と回答できなかったことに対しては、たいへん重く受け止め、早急に改善を図ってまいります。保護者のかたからは、「いつもありがとうございます。初めてばかりの1年生で、子どもが心配になったり、不安になったり、戸惑ったりし、学校へ行きたくないという日もありました。しかし、友達に会いたい、先生に会いたいと日に日にたくましくなっていく姿を見て、先生がたが温かく声をかけてくださったり、気にかけてくださったりしているおかげだと思えました。我が子をはじめ、さまざまな子がいて、対応が大変なこともあると思いますが、今後も温かく、励まし、背中を押し続けていただけるとうれしいです。これからもよろしくお願いいたします。」「子どもを安心して通わせられるのは、先生がたのご努力のおかげだと日々感じており、感謝申し上げます。」などのうれしいお言葉をたくさんいただきました。一方で、子どもへの接し方に対するご指摘もいただきました。

本校では、「心のふりかえり(児童アンケート)」や日頃の生活の様子を観察するなかで、担任が積極的に面談を行い、子どもたちの不安を取り除く努力をしています。そして、子どもに向き合う時間を大切にし、話を聞いたりよいところを認め励ましたりして信頼関係を深めてきました。また、全職員で全児童を支援していけるよう、毎月1回は必ず生活サポート全体会を行い、共通理解を図るとともにその対応策を検討しています。

魅力的な学校であるためには、魅力的な教職員集団であることが最も大切だと考えています。さらに今後は、授業力向上のための研修を充実させたり、子ども一人一人の心の居場所がある学級経営のあり方を学んだりしながら、教職員が一丸となって資質能力の向上に努めてまいります。

⑦ 学校は、子どもたちの登下校の安全確保のために家庭・地域と連携しながら取り組んでいる。

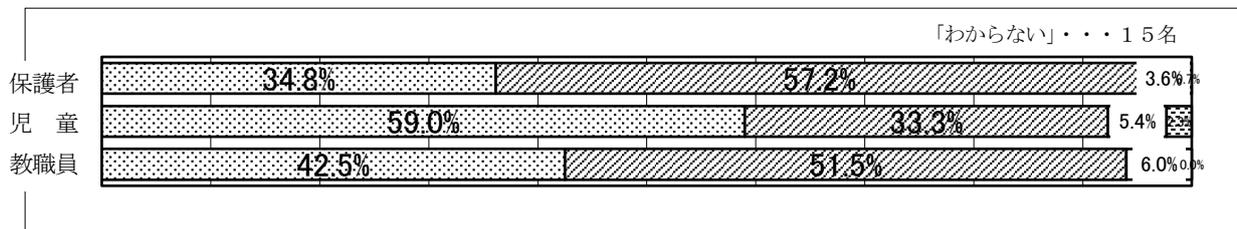


○9割の保護者の皆さんに肯定的な回答をいただいています。保護者のかたからは、「自分の子どもの通学路ではない場所で旗当番をしなければならないことが不満です。」「旗当番に関してですが、回数が多くやや負担を感じます。」「地域のかたが立っている日は、立たなくてもよいのではないのでしょうか。」などのご意見をいただきました。

日頃はお忙しい中、保護者の皆様に交通旗当番として児童の登校を見守っていただきありがとうございます。また、校区子ども見守り隊（自治会）、民生・児童委員の皆様にも、交通指導やパトロール活動を行っていただき感謝しております。ボランティアで、登下校の見守りを毎日行ってくれる地域のかたもいらっしゃいます。教職員については、登校時の立ち当番を月に数回、3か所で行い、校長は南部中南西角の横断歩道で、毎日子どもたちの登校を見守っています。まちなかの校区であるため、通学路に危険な箇所も多く、子どもたちの安全確保のためには、見守りが必要不可欠な現状です。今後ご協力をお願いいたします。PTA旗当番の方法については、PTA役員ともよく話し合い、よりよい方法を検討していきます。また来年度からは、コミュニティスクールが始まります。その場で、地域の皆様とともに当番活動を含めた登下校の安全についても話し合っていけたらと思っております。

学校では、月1回程度、通学班の班長会を実施し、各通学班の現状を把握したり班長の困り感を解消したりして、集合時刻などの諸問題を早期対応できるようにしています。今後も旗当番やパトロール活動で心配されるできごとがあった場合は、学校にお知らせください。その都度、全教職員で共有し、全児童に知らせたり、関係する児童を集めて具体的な指導をしたりしてまいります。

⑧ 学校は、子どもたちが安心・安全に生活できる環境づくりに努めている。



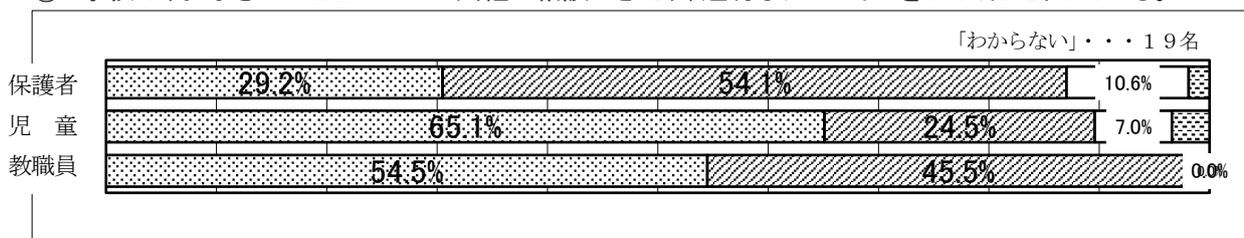
○9割以上の保護者のかたから肯定的な回答をいただいています。また、「トイレ履きと上靴はできれば分けて欲しい。」「先生がたに、フッ素、牛乳、洗剤についての体への影響について、知識として学んでいただきたい。」「給食の牛乳はなしにしていきたい。お茶でよい。」などのご意見がありました。

校舎大規模改修により、保護者や地域の皆様には、駐車場などでたいへんご迷惑をおかけいたしました。この1月より、プレハブ校舎も撤去され、広い運動場で遊びのびのびと遊ぶ子どもたちの姿が見られます。

ご指摘のあったトイレ履きについてですが、この度の工事で、すべての校舎が乾式トイレとなり、上靴のまま利用できる形式となりました。不衛生にならないよう、清掃指導に重点を置いていきたいと思っております。牛乳、フッ素などにつきましては、市の関係諸機関にご意見として出させていただきます。

学校では、月1回の教職員による安全点検を行い、その都度修繕したり対策したりしております。今後も、子どもたちが安心して安全に過ごすことのできる学校づくりに向けて、努めてまいりますので、何かお気づきのことがあれば、お知らせください。

⑨ 学校は、お子さんのことについて気軽に相談できたり、適切なアドバイスをしてくれたりしている。

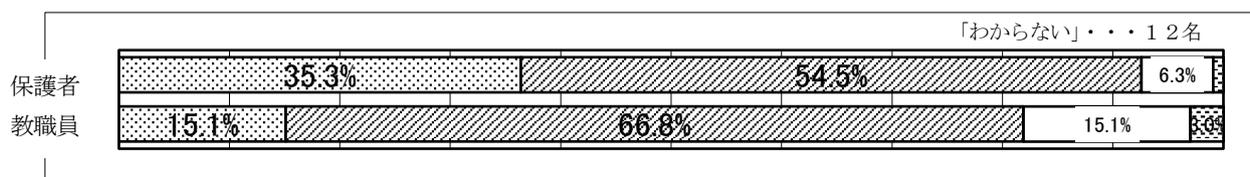


○8割以上の保護者のかたに肯定的な回答をいただいています。「毎日楽しく通学することができており、感謝しております。先生がたはお忙しい中でも、ご連絡を差し上げると丁寧に対応され、安心感があります。」「懇談会の10分間（オーバーしてしまう）は短く感じます。」などの声が寄せられました。

学校では「子どもや保護者の皆様の声に耳を傾ける姿勢」を職員全体で共有し、常に相談者の立場に立って話を聞くよう心がけています。今後も、子どもや保護者のかたから理解が得られるような対応に努めてまいります。懇談会の10分だけでなく、事前にご相談いただければ時間をつくります。お子様のことで気になることがありましたら、遠慮なく学校にお問い合わせください。

学校だけでなく専門機関との連携が必要なケースもありますが、学校が最初の相談窓口として声を届けていただくためには、保護者との信頼関係をさらに強めていくことが何よりも大切だと考えています。子どもたちの様子は担任がいちばんよく知っていますので、まずは担任に相談してほしいと思います。しかし、担任に相談しにくい内容や担任には話しづらい場合は、学年主任や校務主任（生活サポート主任を兼務）が対応しますので、声をかけてください。なお、学校はスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、にじの子相談など専門機関への橋渡しも行っています。

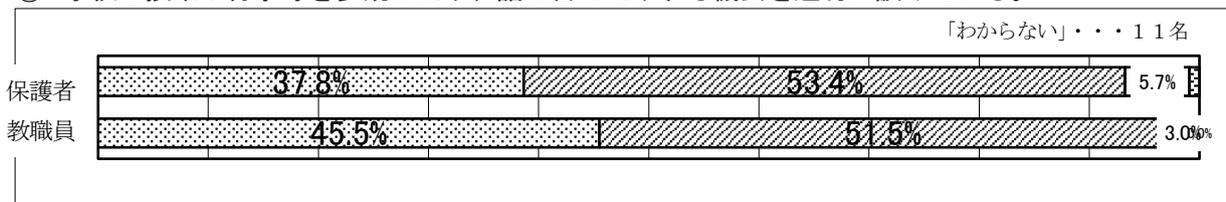
⑩ 学校は、今年度重点的に取り組んでいる内容が伝わるように努めている。



○9割近くの保護者のかたに肯定的に回答していただきました。お忙しい中、学校からの資料や配信を気にかけて見ていただきありがたく思います。

学校としては、『PTA総会の資料』に学校経営方針として今年度の重点目標などを掲載させていただいたり、『学校新聞』や『デンタツくん』『栄小ホームページ』を通して学校の取り組みをお知らせしたりしてきました。ホームページの『校長室より』でも、校長より子どもたちや学校の様子をお伝えしています。ぜひご覧ください。今後も「どんな学校を目ざしているのか」「栄小教育の特色は何か」をより明確にし、一人でも多くのかたに内容がよりよく伝わるように工夫して一層の努力をしていきます。また、この『学校教育目標の実現を目ざす営みを、確かなものに』や、『学校新聞』における学校評価の結果や今後の改善方策の公表もその一つと考えています。

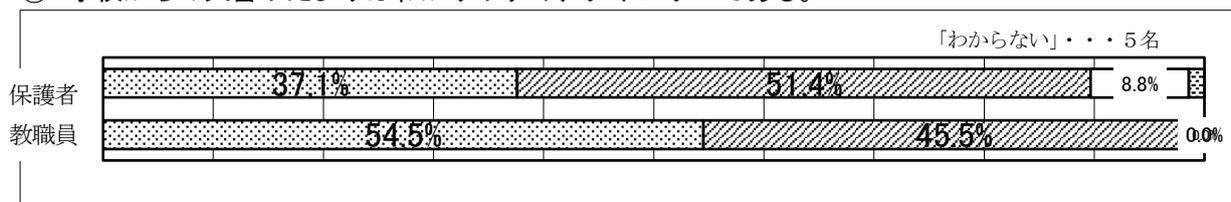
⑪ 学校は授業や行事等を参観したり、話し合ったりする機会を適切に設けている。



○9割の保護者のかたから肯定的な回答をいただいています。「月に1回、少しでもいいから、Teamsでつなぐ授業参観ライトをやってほしい」また運動会に対しては、「校舎の改修が終わったら、ぜひ運動会は全校でやってほしい。」「運動会は、縮小するのをやめて、校区運動会くらい、楽しめる内容にしてほしい。子どもたちが、他学年を応援したり、相互に励ましあったり、そんな運動会にしてほしい。せめて、運動会の日くらいは、ランドセル登校はやめてほしい。」「運動会は今のまま学年毎に時間を区切り、午前中で終わっていただけるとありがたい。」など、相反するご意見もいただきました。

いつもお忙しい中、授業参観や学校行事、懇談会などご来校いただきありがとうございます。来年度の学校行事の内容については、いただいたご意見なども参考にしながら、今後検討してまいります。

⑫ 学校からの文書やたよりはわかりやすく、タイムリーである。



○9割近くの保護者のかたに肯定的な回答をいただいています。

「デンタツくん」アプリについて、「タイムリーだとは思いますが、手紙が配信されてすぐに開封しようとするのが重たくて開けない。」「学級閉鎖や災害等の緊急の呼び出しの場合は、メールやLINEなどで知らせがあるとうれしい。アプリだと気づかない時があるため。」「お手紙とおたよりの違いがわからない」などのご意見をいただきました。

また、学年通信について、「学年通信は紙で欲しい。」「毎月の学年通信が、親発信になることから、本来学校で聞いて自分たちで確認し家庭に伝えるということを本人たちが意識して伝えなくなったので、親が覚えなきゃ伝えなきゃいけないというスタンスに変わってきている気がする。子どもが把握していない事が気になり、子どもの自主性にもつながるのかなとも思う。」などのご意見をいただきました。

日頃から学校からの情報発信にご対応いただき、ありがとうございます。「デンタツくん」につきましても、今後もこのアプリを使用していく予定です。ご意見をいただいた「使いづらさ」については、アプリ開発業者に要望として提出し、可能な限り改善を図っていきたくと考えています。また学校としても、なるべく分散して配信したり、事前に配信予告を行って気にして見ていただけるよう促したりと、できる限り対処してまいります。よろしく願いいたします。

《「お手紙」と「おたより」の使い分けについて》

今まではこのアプリのシステムが、「お手紙」にPDFを添付することができないようになっておりましたので、お手紙の説明にPDFが必要な時には「お手紙」と「おたより」を両方使わなければならない、保護者のかたにもお手数をおかけしておりました。その保護者のかたからのご要望を昨年度末に開発業者にお伝えしたところ、この11月頃から「お手紙」にPDFが貼りつけられるように改良していただきました。したがって今後は、ご連絡は「お手紙」で配信、学年通信、保健だより、PTA通信などは「おたより」で配信というように分けることが可能となりましたので、よろしく願いいたします。

#### 《学年通信について》

昨年度、データでほしいという保護者様のご要望が多かったこととペーパーレス化を進めるという点から、本年度より「デンタツくん」で配信させていただいております。今回、紙でほしいというご意見もいただきましたが、検討の結果、来年度もペーパーレス化の観点からデータ配信させていただく予定です。ただし、学年通信の内容は、子どもたちにもきちんと教室で説明することを徹底していきます。学級掲示の学年通信は、子どもたちの個々のタブレットで撮影することも可能です。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

今後も、日頃の子どもの生活ぶりや学校の取り組みをこまめにお知らせし、学校と家庭がともに健やかな子どもたちを育てていくよう努めてまいります。また、写真や個人名をホームページやプリント、メールに掲載することに関しましては、個人情報の観点から慎重に扱っていきますので、ご理解をお願いします。

### 3 保護者からのその他のご要望「Q&A」・ご意見

本校に寄せられた要望や意見に対し、「2 集計結果とその考察」において学校としての考えを回答してきましたが、ここでは、その他のご要望については「Q&A」としてまとめ、ご意見に関してはそのまま載せさせていただきました。また、PTAに寄せられたご意見につきましては、PTA役員に伝えさせていただきます。

今後も皆様からのご要望やご相談には、誠意をもって対応してまいります。お気づきのことがありましたら、その都度遠慮なく学校までお申し出ください。

#### Q1

・体育のプールの時期は学年で決めてほしいです。この学年だけ11月は2回目です。夏の時期の鼻水程度なら入れますが、11月の鼻水は見学の可能性が高いです。行き帰りもバス停まで歩きますし不公平感が出ないようにしてほしいです。

#### A1

・市の方針により、一昨年度より自校のプールを使用せず、本校はミラまちの「アイレクススポーツ」の温水プールを使用させていただき水泳の授業を行っています。「アイレクススポーツ」を利用するのは本校だけではなく、他校と日程を調整しているため、寒い時期に水泳授業を行う学年も出てしまっています。また、来年度は「アジア大会」のために、9・10月のバスが手配できない関係で、1月までプール指導が予定されています。なるべく同じ学年が寒い時期に重ならないよう、また授業後に、体や髪をよく拭くなど、風邪をひかないように配慮してまいります。ご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。

#### Q2

・競書大会やマラソン大会、理科スケッチ展で、上位の子がいつも一緒なので、例えば、前年より上回った子に対して、努力賞を新設してほしい。

#### A2

・なにごとにも目標をもって取り組むことは、とても大切なことです。子どもたち一人一人が、それぞれの行事に対して目標をもって前向きに取り組むことができるよう、再度検討していきたいと思っております。また、保護者のかたの声かけが、お子さんにとっていちばんの励みになります。それぞれが目標をもてるよう、ご家庭でも支えていただけるとありがたいです。

### Q3

- ・遠足を年に1回は行かせてほしい。

### A3

- ・校外で見聞を広める機会は、子どもたちの学びにたいへん重要です。学校としましては、全校一斉の「遠足」という形ではなく、各学年の発達段階や学習に合わせた「校外学習」を充実させていきたいと考えています。本年度は、「公園探検」「校区探検」「消防署見学」「わくわく体験学習」「工場見学」「戦争遺跡見学」など、それぞれの学年ごとに校外へ出て、楽しみながら学びを深めてきました。来年度も、子どもたちの発達段階や学びに合わせて、価値ある校外学習を積極的に実施していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

### Q4

- ・学級閉鎖の際、下校時刻が変更になった時に、「本日よりのびるん de スクール・児童クラブが利用できません」となった場合は、のびるん・児童クラブへの欠席連絡は学校側から連絡がいつているのか、保護者が個別で連絡を入れなきゃいけないのかを教えてください。また、いつまで学校で預かっていたらいいのか教えてください。

### A4

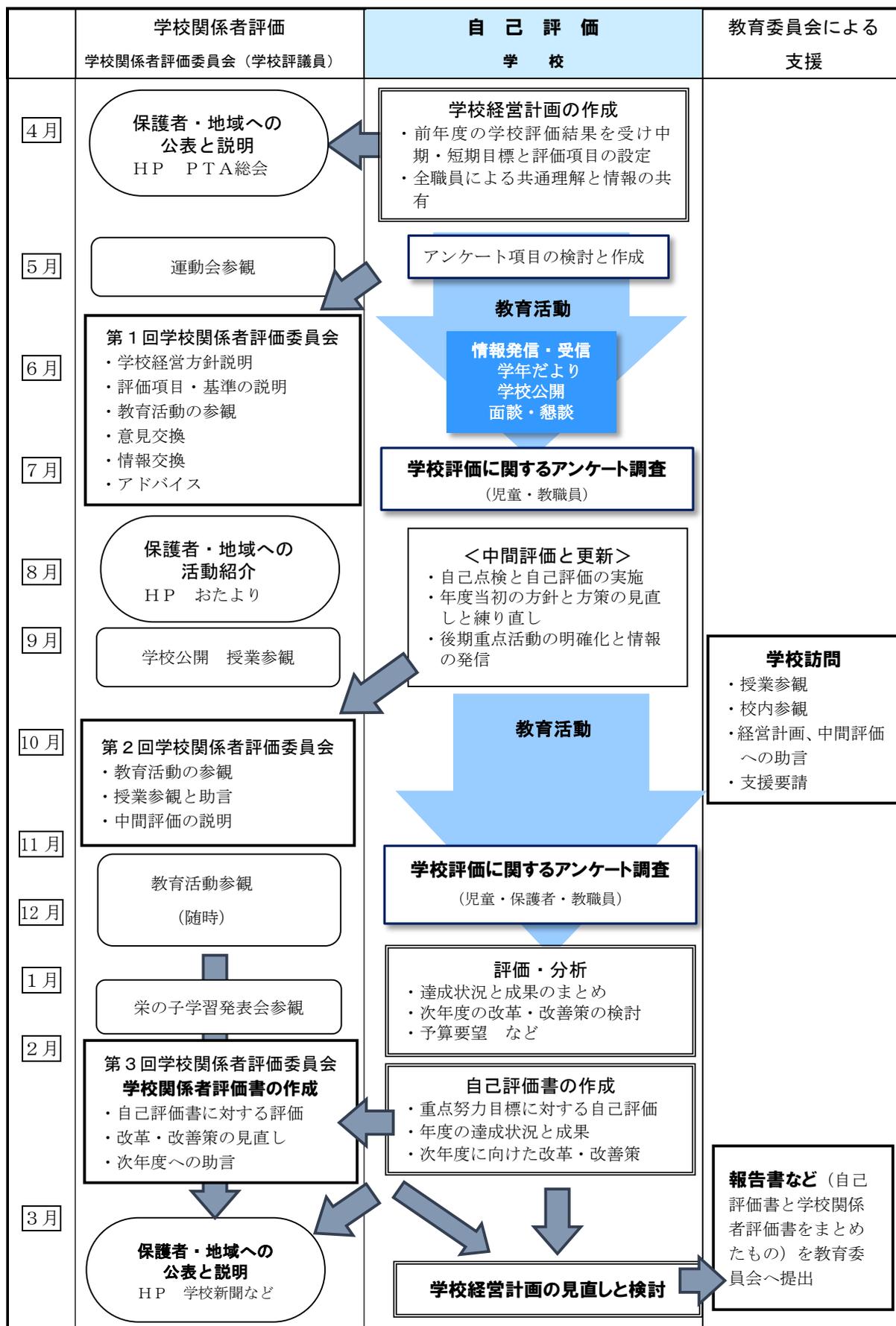
- ・学級閉鎖となった際、市役所生涯学習課の「児童クラブ」と「のびるん de スクール」の担当部署に、毎回学校から連絡を入れています。そこからそれぞれの栄小の担当者に連絡が行くシステムとなっています。閉鎖学級の個々の保護者から児童クラブへの連絡については、それぞれの児童クラブの方針に従ってください。

また、学級閉鎖を決定した日は、感染拡大予防のために早帰りの措置をとらせていただいています。そういう場合も児童クラブやのびるん de スクールは利用できません。急な措置となりますので、その日に児童クラブを利用する予定だった児童については、保護者様のお迎えがあるまで学校でお預かりします。学校職員の勤務時間もありますので、なるべく早いお迎えをよろしくをお願いいたします。

## 4 おわりに ～子どものよりよい姿を求め～

学校は、子どもたちの健全な成長のために、今後も家庭や地域と一体となって教育を推進していくことが大切だと考えております。そのため、学校の果たすべき機能をどの程度果たしているかを総合的・客観的に評価し、その結果を学校運営の修正や改善に生かしてまいります。

来年度も、保護者・児童・教職員の調査結果を有効に活用することで、栄小の子どもたちを学校教育目標で示されている姿に近づけていきたいと考えています。今後も、子どもたちはもちろん保護者の皆様からも信頼される、より質の高い教育を旨として、全職員一丸となって取り組んでいきます。より一層のご支援をお願いいたします。



## 資料2

## アンケート調査項目

教職員と児童や保護者に対するアンケート項目をリンクさせ、その「相違点」を分析・考察することにより、学校課題をより明確にできるようにしています。

	項目	保護者	児童（※2）	教職員
豊かな心	①	学校は、子どもたちがすすんで挨拶できるような取り組みを行っている。	時と場合に応じて、挨拶をしている。	子どもたちが、すすんで挨拶するための手だてを講じている。
	②	学校は、子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。（※1）	相手の気持ちを思いやり、みんなと力を合わせる事ができた。	子どもたちに他人と協調し、思いやる心や感動する心を育てている。（※1）
体力向上 健康増進	③	学校は、子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。（※1）	自分のめあてに向かって、すすんでうんどうした。	子どもたちに必要な体力や、健康に気をつけて生活する意識を育てている。（※1）
確かな学力	④	学校は、子どもたちにとってわかりやすく、学ぶ楽しさや喜びを実感できる授業を行っている。	先生の授業は、楽しく、わかりやすい。	基本的事項の確実な定着を図るとともに、学ぶ楽しさや喜び、成就感を体得させるような授業を実践している。
	⑤	学校は、子どもたちに知識や技能、自分で考え行動する力を育てている。（※1）	知りたいことや調べたいことがあるとき、自分から本やタブレットで資料や情報を集めたり、だれかに質問したりできた。	子どもたちに知識や技能、自分で考え行動する力などを育てている。（※1）
安全・安心な学校づくり	⑥	学校は、子どもたちが通いたくなる（親が通わせたい）学校づくりを推進している。	学校へ来るのは、楽しい。	学校が好きな子どもを育成する学級経営や安全安心な学校づくりに努めている。
	⑦	学校は、子どもたちの登下校の安全確保のために、家庭・地域と連携しながら取り組んでいる。	安全な登下校ができ、放課は安全に気をつけて過ごせた。	子どもたちの交通安全、防災、防犯についての指導は、計画的になされている。
	⑧	学校は、子どもたちが安心・安全に生活できる環境づくりに努めている。	いつも安心して学校生活が過ごれている。	学校が子どもたちの学習や生活の場としてふさわしい環境であるように手だてを講じている。
	⑨	学校は、お子さんのことについて気軽に相談できたり、適切なアドバイスをしてくれたりしている。	先生は、困ったときに話を聞いてくれる。	一人一人の子どものお話を聞いたり、よいところを認め励ましたりして信頼関係を強くしている。
開かれた学校	⑩	学校は、今年度重点的に取り組んでいる内容が伝わるように努めている。		教育目標や経営方針がよく理解されるような手だてを講じている。
	⑪	学校は授業や行事等を参観したり、話し合ったりする機会を適切に設けている。		学校公開日の時期、内容は、適切・十分である。
	⑫	学校からの文書やたよりはわかりやすく、タイムリーである。		文書やたよりは、保護者のニーズにあった内容で、時期も考えて出している。

（※1） 第6次豊橋市総合計画の指標に関するアンケート項目です。

（※2） 児童は3～6年生がアンケート実施しています。